

環境総合研究所講座

開催日時	講 師	テーマ・内 容
第34回 1/12（土） 10:00～12:30	寺田裕美子 HTR（アメリカ園芸療法協会認定 正園芸療法士） 大阪信愛女学院短期大学 園芸療法士の会	「作業療法・園芸療法・音楽療法の特性をプログラムから考える」 ～どんな特徴があるの？どうやって選べばいいの？～ 総括/作業療法士：山根 寛 (医学博士、京都大学大学院医学研究科人間健康学科系専攻教授、作業療法士、登録園芸療法士) 音楽療法士：阿比留 睦美 (京都大学医学研究科博士課程大学院) 作業療法士：田崎史江 (介護老人保健施設和佐の里機能訓練課作業療法士、登録園芸療法士) 近年、医療や福祉の現場で高齢者や障がいのある方々に様々な療法が広く取り入れられるようになりました。現場でこれらのプログラムを実施している作業療法士、音楽療法士、園芸療法士をお招きし、同じ課題をテーマに立案したプログラムを比較することで、それぞれの療法の特性や役割を理解し、これからの活用方法について考える機会とします。
第35回 3/16（土） 10:00～11:30	田中亀代次 (大阪大学大学院生命機能研究科 特任教授)	遺伝子から見た生命と病気 ゲノムとは、生物が持っている遺伝情報の全てをしめす言葉であり、2003年にヒトの全ゲノム情報が解読された結果、ヒトゲノムは約2万2千個の遺伝子を含むことがわかりました。遺伝子は生命の設計図であり、その情報に添ってタンパク質が生成されます。そのタンパク質が細胞の様々な機能と構造を担うことにより、ヒトの発生、成熟、老化などさまざまな生命活動が営まれます。また、がんをはじめ多くの病気の原因も遺伝子レベルで解明されようとしています。最近、遺伝情報を格段に迅速に解明することが可能になり、個人の全ゲノムが短期間で解読できるようになりました。その結果、ゲノムは、同じヒトであっても個人個人で異なることがわかってきました。病気の原因も個人のゲノムレベルで解明されようとしています。最近の遺伝医学の進歩によって「いのち」がどのようにして解明されつつあるかを、臓器の再生に向け期待されているiPS細胞、疾患遺伝子の同定、がんと遺伝子変異、個人に合わせた医療などの例をあげて紹介します。
第36回 3/16（土） 13:30～15:45	大蔵珠己 (大阪市立総合医療センター 助産師)	臨床での死産ケア 死を迎えたあかちゃんの『育児』を支援する 近年、医療の現場は管理医療が中心となってきました。マニュアル・手順・ガイドラインを始めとする様々な管理システム。電子カルテを始めとしたIT化された医療。数値化して示されるフィジカルデータの重視。私たち助産師・看護師のケアは、標準化された『ビジネス』となってきたように思います。 そのような中、周産期におけるグリーフケアは、臨床現場でのケアニーズの高まりにより関心が寄せられてきました。死産に関する書物・文献も増えてきた今日ですが、まだまだ戸惑うスタッフも決して少なくないことでしょう。あかちゃんに会って、抱っこする。手形や足型を取り思い出の品を残す。このような手順や方法ばかりが先行し、ケアの本質の部分は未だベールに包まれているようです。愛しのわが子を失うことは、想像を絶する悲しい体験です。しかしながら、悲しみだけではないと思うのです。悲しい体験の中で、思い起こすことができる喜びの体験（つまりは親役割遂行体験）が多ければ多いほど、親としての自信に繋がりが、亡くなったあかちゃんが人として家族の中に存在するようになっていくのではないのでしょうか。亡くなったわが子との触れ合いの時間、思い出作りの体験は、死産時における『育児』に相当するのかも知れません。その体験は、親役割の達成感を高め、母親・父親としての自信に至るものと考えられます。私たちが一貫した姿勢で亡くなったあかちゃんを一つの命、一人の人としてケアすること、私たちの寄り添いたいと思う「心」がなくては、この『育児』は円滑に進んでくれないでしょう。相手を思いやり、お母さんや家族の立場になって考えようとする私たちの「あたたかい心」は、マニュアル・手順・ガイドライン等の取り決め事の応用や、一歩踏み込んだケアの実践を支えてくれることでしょう。その「あたたかい心」こそ、悲しみの中での喜びを提供する一歩となり『育児支援』を進めてくれるのかも知れません。

児童教育研究所講座

開催日時	講 師	テーマ・内 容
第18回 5/25（土） 10:30～12:00	飯田 誠 （大阪信愛女学院短期大学教授）	「牛乳パックで楽しい工作」（親子の関係を考える講座 第1回） 牛乳パックはペットボトルと並んで、保育現場でよく利用される丈夫な材料です。生活廃材を再利用すること自体、クリエイティブで楽しいことです。生活に色を添えるユーモラスな写真立てや小物入れを作ります。
第19回 6/9（土） 10:30～12:00	馬場桂一郎 （大阪信愛女学院短期大学教授・こども教育学科長）	「親子体操」（親子の関係を考える講座 第2回） 現在私たちは、何かに追われるような忙しい毎日を送っています。それは、何だと問われても、答えは難しいのですが。親子の間においても、もっとゆったりとした時間をとり、話をしたり、一緒に遊んだりする時間を持つことはできないでしょうか。今回、親子体操を紹介するのは、忙しい生活の中で短い時間ではあっても、親子が真正面から向き合う時間を持つてほしいと思うからです。お互いの体の重さ、体の柔らかさ、温かさ、子どもたちの発達を実感してください。
第20回 6/16（土） 10:30～12:00	岩崎光弘 （リトミック研究センター会長）	「リトミックは子育ての応援団」（親子の関係を考える講座 第3回） リトミック、それは楽しい音楽遊びです。音楽的基礎能力を育てながら、集中力や反射反応力、積極性、直観力、記憶力などを養っていきます。これらの基本的な能力は、子どもたちがこれから受けるであろうあらゆる教育を十分に吸収し、大きく育つための栄養となるでしょう。リトミックは子育ての大応援団です。

阪神奈大学・研究機関生涯学習ネット 公開講座フェスタ2010

11/14 （月） 16:00～17:30	中野雅子 （大阪信愛女学院短期大学教授）	老年期の転倒とQOL 年を取りますと自分で気が付かないうちに転びやすくなっています。しかも、一旦転びますと骨折しやすく、生活の質が大きく変わってしまいます。「転ばぬ先の杖」として、日常生活をもう一度見直すことを提案します。
-----------------------------	-------------------------	--

親子参加型の講習会（主催 鶴見区役所保健福祉課 子育て支援室）

未就学児親子が身体を動かしながら楽しく学べる講習会

3/18(月) 10:30～12:00	芝 誠貴（大阪信愛女学院短期大学准教授）	親子のかかわりと“絵本のちから”
	大阪信愛女学院短期大学「幼児歌遊び研究会」	歌遊び
3/21(木) 10:30～12:00	舟井賀世子（大阪信愛女学院短期大学非常勤講師）	動物パフェを作ろう
	大阪信愛女学院短期大学「幼児歌遊び研究会」	歌遊び